

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果について

大台町教育委員会

令和5年4月18日に、小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果の概要について、以下の通りまとめました。

結果の公表については、保護者・地域の皆様に学校教育と家庭教育についてのご理解・ご協力を得ることが何よりも大切であると考え、教科に関する結果、学力の背景となっている児童・生徒質問紙調査から見られた本町の児童・生徒の好ましい傾向と教育課題、そして今後の取組についてお示しさせていただきます。

教科に関する調査結果の概要

教科に関する調査は、中学校では国語・数学・英語の3教科で実施され、大台町立中学校第3学年の生徒48名が参加しました。調査結果については、中学校は、国語、英語二教科において、全国平均正答率を上回る結果となりました。数学において、全国平均を下回る結果となりました。以下に、調査結果から「おおむね理解している問題」と「課題がみられた問題」についてまとめました。

【中学校 国語】

<おおむね理解している問題>

- ◇聞き取ったことをもとに、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題
- ・インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く。 【14】 (正答率: 約9割)

<課題がみられた問題>

- ◆意見と根拠など情報と情報の関係について理解しているかどうかをみる問題
- ・インターネットの記事を読んで気づいた点として適切なものを選択する。 【12】 (正答率: 約6割)

大問12

南さんが【インタビューの前に準備したメモ】の<インタビューを通して知りたいこと>に、下線部①のように知りたいことを書いたのは、【インターネットの記事】のどのような点に気付いたからか、最も適切なものを選ぶ。

情報の扱い方に関する事項

課題がみられた問題

【インターネットの記事】

製品開発にかける思い

電化製品を開発するに当たって、最も大事にしているのは、安全性です。お子様からお年寄りまで、どの年代の方も安心して使用できる製品の開発を常に心がけています。しかし、安全性だけでなく、デザイン性や利便性も大事にしたいと考えています。

現在、私は、電気ケトルの開発を担当しています。電気ケトルは、容量が小さく、使う分だけ短時間でお湯を沸かせるのが特徴で、弊社の製品の中でも御好評をいただいているものの一つです。安全性を保ちつつ、デザイン性や利便性も兼ね備えた製品を開発するのは難しいことですが、よりよい製品をお届けできるように努力を重ねています。

製品開発部
星野主任

【インタビューの前に準備したメモ】

<インタビューの目的>
星野さんの製品開発に対する思いを聞き、自分の考えの参考にする。

<インタビューを通して知りたいこと>

- ・「安全性だけでなく、デザイン性や利便性も大事にしたい」と考えるのはどうしてか。
- ・「安全性を保ちつつ、デザイン性や利便性も兼ね備えた製品を開発するのは難しい」とあるが、具体的にどのような難しさがあるのか。
- ・社会で働く上で何が大切だと思うか。

【正答】【番号】3 正答率: 58.3%

- 1 事例は示されているが、星野さんの考えとは内容が矛盾している点。…2.1%
- 2 事例は示されているが、星野さんの考えが書かれていない点。…25.0%
- 3 星野さんの考えは示されているが、その理由が書かれていない点。
- 4 星野さんの考えと理由は示されているが、理由として不十分である点。…14.6%

誤答例の分析と課題

「2」と解答した生徒は、【インターネットの記事】にある「安全性だけでなく、デザイン性や利便性も大事にしたいと考えています」という部分が、星野さんの考えを示した情報であることを捉えることができているものと考えられます。

<今後の学習の手立て>

「情報と情報との関係を理解する指導を大切に…」

資料から必要な情報を取り出して整理するなどの学習活動においては、「原因と結果」、「意見と根拠」、「具体と抽象」などの基本的な情報と情報との関係について理解し、実際に話したり聞いたり書いたり読んだりする場面で活用できることを大切にしていきます。またその際に、資料の内容を理解するだけでなく、意見と根拠などの関係に注意して、不足している情報がないかやその関係が適切かなど、情報と情報とがどのように結び付いているのかをしっかりと捉えることができるように指導していきます。

☞ R5年度【中学校国語】調査問題



【中学校 数学】

<おおむね理解している問題>

◇数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる問題

・ $12(x/4+y/6)$ を計算する。 [2] (正答率: 約8割)

<課題がみられた問題>

◆条件を変えた場合には事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読みとることができるかどうかをみる問題

・二等辺三角形でない2つの合同な三角形のときに平行線が引けないことについて、二等辺三角形のときの証明の中から成り立たなくなる式を書く。

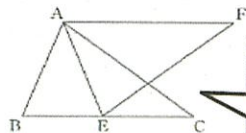
[9 (2)] (正答率: 約3割)

大問2(4)

「合同な2つの二等辺三角形」という条件を、合同であることは変えずに、二等辺三角形ではない三角形に変えた場合に、もとの証明のどの部分が成り立たなくなるのかを考える。 【図形】

課題がみられた問題

図7



$\triangle ABC$ と $\triangle AEF$ は
合同な二等辺三角形

$BC \parallel AF$ であることは、次のように証明できます。

証明1

$\triangle ABC = \triangle AEF$ より、合同な図形の対応する辺と角はそれぞれ等しいから、

$$AB = AE \quad \dots\dots ①$$

$$\angle ABC = \angle AEF \quad \dots\dots ②$$

$\triangle AEF$ において、二等辺三角形の底角は等しいから、

$$\angle EAF = \angle AEF \quad \dots\dots ③$$

②、③より、

$$\angle ABC = \angle EAF \quad \dots\dots ④$$

また、①より、 $\triangle ABE$ は二等辺三角形である。

二等辺三角形の底角は等しいから、

$$\angle ABE = \angle AEB \quad \dots\dots ⑤$$

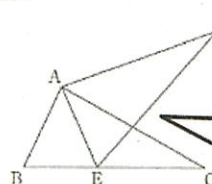
$\angle ABE = \angle ABC$ だから、④、⑤より、

$$\angle EAF = \angle AEB$$

よって、錯角が等しいから、

$$BC \parallel AF$$

図8



$\triangle ABC = \triangle AEF$ であることは変えずに、二等辺三角形ではない三角形に変えた。

優奈さんは、図8で $BC \parallel AF$ とならないのは、前ページの証明1の①から⑤のどれかが成り立たないからだと考えました。

図8のような二等辺三角形ではない合同な2つの三角形の場合には、 $\angle EAF = \angle AEB$ とならないため、 $BC \parallel AF$ となりません。このことは、証明1をもとに、次のように説明することができます。

二等辺三角形ではない合同な2つの三角形の場合には、証明1の **I** が成り立たないから、**II** が成り立たない。よって、 $\angle EAF = \angle AEB$ とならないから、 $BC \parallel AF$ とならない。

上の **I** には証明1の①、②、③のどれか1つが、**II** には証明1の④、⑤のどちらか1つが当てはまります。**I**、**II** に当てはまるものをそれぞれ書きなさい。

〈正答〉

Iに③と解答し、
IIに④と解答しているもの。

正答率：27.1%

〈誤答例〉

Iに②と解答し、
IIに⑤と解答しているもの。
・・・16.7%

誤答例の分析と課題

条件が「二等辺三角形ではない合同な2つの三角形」に変わったことから、証明1に書かれている「二等辺三角形の底角は等しいから」を根拠としている③と⑤が成り立たなくなったと捉えたと考えられます。また、条件を変えても、△ABEがAB=AEの二等辺三角形であることは変わらないということに気付くことができなかったとも考えられます。

〈今後の学習の手立て〉

「証明を振り返り、図形の性質を論理的に考察することができるようにする指導を大切に」

ある事柄の条件を変えた場合について考察する場面では、証明を振り返り、証明に用いた前提や根拠などを整理するなどして、図形の性質を論理的に考察し表現することができるように指導することを大切にしていきます。また、図形の性質を考察する場面では、観察や操作、実験などの活動を通して、予想した事柄が成り立つ理由を筋道立てて考えることができるようにするとともに、条件を変えるなどして統合的・発展的に考察することができるように指導していきます。

☞ R5年度【中学校数学】調査問題



【中学校 英語】

〈おおむね理解している問題〉

◇情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる問題

- ・ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する。 (1 (1)) (正答率：約9割)

〈課題がみられた問題〉

◆社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる問題

- ・ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く。 (9 (2)) (正答率：約2割)

大問8(2)

ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えと理由を英語で書く。 【書くこと】

正答率：22.9%

無回答率：10.4%

課題がみられた問題

Today we see many kinds of robots around us. They are helpful. When I went shopping, I saw a robot and it was working as a guide. I could talk to the robot in English or other languages. At some restaurants, robots bring our meals. They can carry many plates at one time. Thanks to them, the restaurant doesn't need a lot of staff members. We have robot pets, too. We can have them even if we are busy with work or we live in small apartments. People will have fun if they live with robot pets. As I explained, robots can change many people's lives for the better. Do you agree with me? Why or why not?



〈正答例〉

- ・ I agree with you. If robots do our housework, we will have more time.
- ・ I don't agree with you because people will lose their job.

〈誤答例〉

書き手の意見に対する自分の考えは書けているが、理由が書けていない。

- ・ Yes, I do. I think robots is very nice.
- ・ No, I don't. I don't like robots. ...39.6%

☞ R5全国学力学習状況調査 中学校英語より

誤答例の分析と課題

このように解答した生徒は、筆者の問いかけに対する自分の考えは書けていますが、その理由を書くことに課題があるように思われます。どのようなことを書けば理由になるのか理解できていない、あるいは、理由を書くために必要な表現が身に付いていないことが考えられます。

<今後の学習の手立て>

「読んだことを基に自分の考えとその理由を英文で書くことができるように…」

自分の考えや気持ちを英語で書く言語活動を継続的・計画的に取り入れていきます。教科書に取り上げられている話題や社会的な話題に関する説明文や意見文を読み、自分の感想や意見などを簡単な語句や文を用いて、話したり書いたりする活動を大切に行っていきます。また、書いた英文を生徒同士で読み合った後、内容や表現の改善点を引き出す指導も大切に行っていきます。

☞「R5年度（中学校英語）調査問題」



生徒質問紙調査からみられた子どもの姿より

大台町の子どもたち

学校に行くのは
楽しい

87.5%
(全国81.8%)

人の役に立つ
人間になりたい

97.9%
(全国94.6%)

自分には
よいところがある

89.6%
(全国80.0%)

地域や社会をよくする
ために何かしてみたい

72.9%
(全国63.9%)

地域の行事に
参加している

60.4%
(全国38.0%)

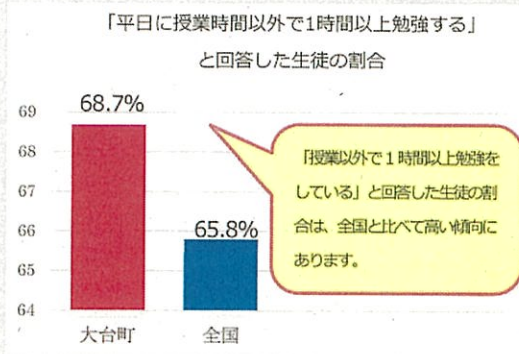
※子どもたちが生徒質問紙で肯定的に回答した割合が高かった主な設問より

生徒質問紙調査からは、多くの子どもたちにとって学校が安心できる場所となっていることがうかがえます。また、地域の行事に参加するだけでなく地域のために何かできることはないかと考えていることもわかります。これまで道徳教育や特別活動の充実、9年間を見通した人権学習、豊かな自然環境を生かした体験活動をはじめ、学校教育活動全体を通じて子どもたちの豊かな心をはぐむ取組を進めてきた成果であるといえます。今後もさらに、子どもたち一人ひとりのよさを認めたり、達成感を味わわせたりする教育活動を進め、子どもたちが将来に、夢や希望を持ち、その実現に向かって自信を高めていけるよう努めていきます。大台町の子どもたちは、保護者や地域の皆様に支えられ成長しています。今後も、保護者や地域と連携しながら、大台町ならではの特色ある学校づくりを進めていきます。

ご家庭でお願いしたいこと

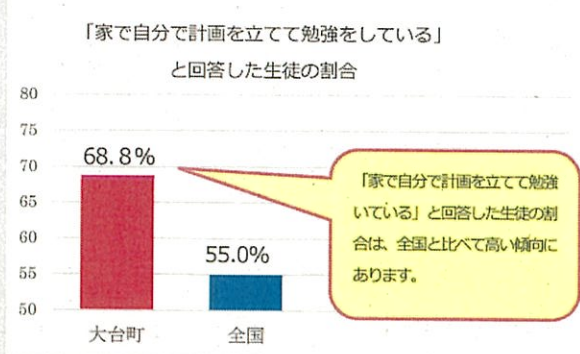
【表1】

Q 学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強をしていますか



【表2】

Q 家で、自分で計画を立てて勉強していますか



家庭で学習する習慣を身につけましょう

【表1】からわかる通り、「授業以外で1時間以上勉強をしている」と回答した生徒の割合は、68.7%で全国平均と比べて高い傾向にあり家庭で学習する習慣が定着しているといえます。また、【表2】からわかる通り、「家で自分で計画を立てて勉強している」と回答した生徒の割合も、68.8%で全国平均と比べて、10ポイント以上高い傾向にあり、自主的に学習に取り組む力が育ってきていることがわかります。毎日、繰り返しの練習や復習、予習に取り組むことが、基礎・基本の確実な定着につながります。また、自分にとって必要な学習が何なのかを考え、計画的に学習に取り組むことが大切です。子どもたちが毎日、家庭での学習に取り組むことができるよう励ましの声かけや集中して取り組める環境づくりにご協力をお願いします。

大台町では、自立的な学習者を育てるために小中9年間を見通した「大台町家庭学習系統表」を作成し、それをもとに各校が「家庭学習の手引き」を子どもたちと保護者に配付しています。また、自主学習の取組もすすめています。「家庭学習の手引き」をご活用いただき、お子さんと一緒に家庭学習の取組についてふりかえっていただきますようお願いいたします。



地域、保護者のみなさまへ

大台町では、学校と教育委員会が一体となって、子どもたちの「確かな学力」「豊かな心」の育成を目指して取り組んでいきます。学力向上の中心となるのは、「授業づくり」です。本調査の結果を学校と共有し、子どもたちが「学ぶ喜び」「わかる楽しさ」を実感できるよう授業改善を進めていきます。今後も、家庭、地域の協力のもと子どもたちの成長を支えていきたいと思ひます。ご理解、ご協力をお願いします。